

[講演要旨]

帝国大学理科大学「地震学及地理学研究材料報告」に記載される 津波痕跡の検証

蝦名裕一*(東北大学災害科学国際研究所)・佐竹健治(東京大学地震研究所)

§1. 帝国大学理科大学による調査の内容

東京大学地震研究所所蔵「地震学及地理学研究材料 測候所郡役所組合事務所報告」(以下「研究材料報告」とする。)には、1893年(明治26年)に帝国大学理科大学が各地の郡役所・測候所に対し、①過去の「海嘯」に関する口碑・記録と②明治26年から50年以内の海底変動に関する情報について調査を依頼し、その報告書が収録されている。この調査は、羽鳥(1976)で分析された東大地震研所蔵『静岡県地震報告 其二』の中に収録された静岡県下26ヶ町村の報告書と同一の調査と判断できる。すなわち、この調査は1891年(明治24年)に発生した濃尾地震を受けて帝国大学理科大学が総長加藤弘之名義で全国的の町村を対象に実施されたものであり、「研究材料報告」はその一部ということになる。「研究材料報告」に収録されているのは、北海道・岩手県・福島県・千葉県・富山県・三重県・愛媛県・宮崎県・沖縄県の1道9県の情報である。本報告では、「研究材料報告」に記載される津波痕跡情報について検証する。

§2. 「研究材料報告」の記載事項とその検証

表1に、「研究材料報告」に記載される千葉県における海嘯の伝承についてまとめた。ここで報告されている「海嘯」のうち、津波に関連する情報は下記の通りである。

- ① 明応の地震による津波発生(現銚子市)と地盤隆起(現館山市)＝明応7年8月25日(1498.9.20)の明応地震に関連した情報とみられる。地盤隆起の伝承に挙げられる「今境橋」は現在でも館山市長須賀地区に存在する。
- ② 慶長19年10月25日の津波(銚子) 田中玄蕃『先代集』に記載されるが、他地域にはこの津波に関する記録・口碑はみられない。
- ③ 延宝5年10月9日(1677.4.13)延宝房総津波について田中玄蕃文書の記載および高神村の口碑が確認できる。
- ④ 元禄16年10月23日(1703.12.31)の津波について、外房の夷隅郡・山辺郡で多くの溺死者の伝承。伝承の元となった清海村・禅奥寺や大沢村八幡神社は今日も存在する。

ほか、安政元年11月4日(1854.12.23)の安政東海

表1. 「研究材料報告」にみる千葉県の「海嘯」記事

役所	町村	種別	年月日	記述内容
安房平・朝夷・長狭郡	長須賀村	口碑	明応	地震前までは今境橋まで船舶の航行が可能、明応の地震で隆起
夷隅郡	清海村	口碑	元禄	三夜祭で集まっていた住民が津波で溺死。禅奥寺の境内の杏樹に漂流物が残存。
	大沢村	(口碑)	元禄	八幡神社はかつて道路下にあったものを高所に移転
	五井町	口碑	元文中	*「海嘯年度」
		口碑	天明年中	
		(口碑)	天保4.8.1	
		(口碑)	明治13.10.3	
	八幡村	(口碑)	明治13.10.3	海嘯、「別段地変」はなし
千葉郡	蘇我町	口碑	寛政3.8	暴風雨海嘯
		口碑	天保4.8.1	暴風波瀾
		口碑	安政2.10.2	震災
		口碑	明治13.10.3	暴風波瀾
長柄郡	南白亀村	口碑	元禄16.11.23	海嘯
		(口碑)	安政1.11.4	地震
東葛飾郡	行徳町	(口碑)	元禄16	海面変動
		(口碑)	安政3.8	海嘯
		(口碑)	明治1.8	海嘯
山辺郡	鳴浜村	口碑	元禄年中	大地震
		(口碑)	元禄16.11.23	大海嘯、数百の遺体を埋葬。
海上郡	銚子町	(口碑)	安政2.10.2	小海嘯
		文書	明応5.8.25	大地震・津波
		文書	慶長19.10.25	観音裏門まで浸水
		文書	延宝5.10.9	津波、男女2人溺死、4.5人行方不明
		文書	天正18.11.14	大水
		文書	寛永17.2.13	大風雨、前田廟所の浸水
		文書	元禄16.11.22	納屋5軒流失
		文書	延宝5.10.9	地震発生後の異音
		(口碑)	延宝・元禄	君ヶ浜に土砂が打ち上がる。
		(口碑)	安政1.10.4	異常な干潮、大砲のような轟音の後、津波
		(口碑)	天明年中	海嘯、下永井の田地が浸水
(口碑)	安政年度	海嘯あり、大海嘯に至らず		

地震の前音現象や津波(高神村)、安政2年10月2日(1855.11.11)の安政江戸地震において山辺郡緑海村での「小海嘯」が発生した事が記されている。

なお、本報告書においては、高潮についても「海嘯」として記載されており、安政3年8月25日(1856.9.23)に発生した安政江戸台風の際の行徳町における人畜被害の口碑などが報告されている。この調査における「海嘯」は明確に定義されておらず、市原郡五井村からの報告では「但海嘯ハ強風ニ起因セルモノナルヘシ」と記されている。

§3. 「研究材料報告」の痕跡情報の評価

「研究材料報告」に収録された情報の大半は口碑伝承に拠るものが多く、また「海嘯」の定義は自治体により異なっており、津波や高潮の明確な区別はつけられていない。ゆえに、他の諸記録および資料と比較検証しながら用いる必要がある。

*謝辞:本研究は平成29年度東京大学地震研究所「地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究」共同利用研究の成果の一部である。